

令和3年1月(2021年) No. 661

<新年のごあいさつ>

## 今年の「夢」、皆と鍋をつつき、顔を合わせて

### 映像談義で大いに語り合いたい

会長 合原一夫

コロナ禍が昨年よりまだ続いており、いつ終るか分からない令和3年の幕明けですが、早くワクチンが行き渡ってコロナ騒ぎに終止符を打ちたいものです。ソーシャルディスタンスとか「3密」とか、いまわしい言葉が早く過去のものになってほしい。そして「普通の生活」「通常の映像活動」を取り戻したい。とにかく、これが今年の私の夢なのだから、夢の概念も変わったものです。

コロナ禍の今は、とにかくステイホーム、5人以上の会食は自粛せよ、大声でしゃべるな、食べる時以外はマスクをしている、等々。およそ私達の生きる喜びが、これまでは全く阻害されてしまっています。ですからコロナ以前の私たちの楽しい普通の生き方が、如何に貴重だったかを思い知らされているわけです。そこで、今年の夢はコロナ以前の姿に戻ること、なんです。

撮影会もやりたい、祭りも撮りたい、予約制なしで映写会もやりたい、映写会の後の懇親会で大いに語り合いたい。こういう今までやってきた事がなんと素晴らしい事だったのか、改めて思い知らされています。

今のところはコロナとうまく付き合っただけでやっていく以外ありません。自粛、自粛で家に閉じこもっていたのでは心身共に不健康になります。

工夫して動き、仲間とのふれあいも大切にして残り少ない人生を楽しんでいきましょう。とにかく本年もどうぞよろしくお願い致します。



## 1月例会と総会のお知らせ

- 1月21日(第3木曜日) 13時～総会・表彰式及び第2例会開催
- 1月23日(第4土曜日) 18時、通常例会
- 会場 難波市民学習センター
- 今年は恒例の新年会は中止します。

## 令和2年度 年度表彰 発表

令和2年度年度賞は、幹事会による厳正な審査の結果、残念ながら最優秀作品は該当する作品が無く、優秀賞2作、秀作賞1本の計3本が選ばれました。

■2020年度 年度優秀賞 中村幸子様

「嵐山のベテラン俣夫」

■2020年度 年度秀作賞 河口禮志様

「めおと節人生」

■2020年度 年度優秀賞 高瀬辰雄様

「嵐山の魅力を伝える俣夫の道」

以上3作品に対し、記念品を総会の席上で贈呈いたします。おめでとう、拍手！

## 最多例会出席、出品者賞表彰

令和2年度は緊急事態宣言により、例会会場が、閉鎖されたり自粛による休会となった月が3回、第2例会が1回あり全体として出席者数、出品数が減りましたが、熱心に例会に参加された方が多くいらっしゃいました。

■最多出席者賞（通常例会+第2例会）

- ・14日；江村、進藤、高瀬、山本、森下
- ・13日；岡本、合原、関、中川

■最多出品者賞（通常、第2、課題コン）

- ・18作品；江村氏
- ・15作品；高瀬氏
- ・14作品；紙本、山本の2氏

以上、例会を盛り上げて頂いたご功績に対し、気持ちだけですが記念品を総会の席上で贈呈し、感謝いたします。拍手！

## 過去4年間の例会記録

第2例会が始まったのが平成29年からなので、それ以後の傾向を調べました。

■この4年間の通常例会の記録

年度	会員数	出席者	出品数	総本数
H 29	37人	22.0人	12.4人	149本
30	34	17.3	10.1	121
R 1	29	14.6	9.7	116
2	27	13.1	10.2	92

■第2例会

H 29	37人	16.8	12.5	75
30	34	16.8	11.2	67
R 1	29	14.0	10.7	64
2	27	12.4	10.6	53

■解説

こうした現実の数字を見ていると、年々、厳しい状況になっていることは間違いない。令和2年度はコロナ禍で特に落ち込みが多いとは言え、例えコロナ騒ぎが無かったとしても傾向は変ら無かったと思う。一因は会員の高齢化であり若い人の入会が無いということである。ともあれ、皆さんよく頑張って映像活動を、続けてこられたんだなあ、と感服の至りである。年間作品発表数18本の江村氏、15本の高瀬氏、

■通常例会+第2例会

年度	年間合計出席者	年間合計作品数
H 29	264+101=365名	149+75=224本
30	208+101=309	121+67=188
R 1	175+84=259	116+64=180
2	118+62=180	81+53=134

注1：課題コン、撮影会コンの作品は、第2例会に含まれる。

注2：出席者、出品数の数値は、1例会当たりの数を示す。

注3：R2(令和2年度)は通常例会3回、第2例会1回の休会があった。

注4：第2例会は奇数月だけ開催年6回

14本の紙本、山本の両氏、13本の進藤、中川の両氏等のご活躍が、例会を盛り上げて頂いた要因の一つだ。

又、第2例会も含め、全例会に出席された方が江村氏等5名、1回だけの休みに過ぎなかった人が岡本氏等4名といったように例会を最優先して出席なさっている一定の方が多いことが、安定した会の運営を可能にしているとも言え、感謝感激である。改めて御礼申し上げたい。

## <コラム>

### 前年度を振り返り

#### これからの事を思う

合原一夫

令和2年度は、誠にコロナ、コロナで、生活様式が一変し、活動にブレーキがかかった年であった。マスクをしないで街を歩いたり乗り物に乗ったりしたら白い目で見られそうだったり、3密だのソーシャルディスタンス等、年初、誰が想像したであろうか。

日本を縦断する映像発表会は緊急事態宣言により全国的に中止になったり、毎月の例会も3ヶ月に渡って休会を余儀なくされたり、散々な年であった。

大阪アマチュア映像祭も開催はできたが、入場制限により手続きが増え、倍以上の手間と経費が掛かった。今年の日本を縦断する映像発表会は、昨年の延期で3月予定しているが、これも入場制限により、大阪アマと同様、倍以上の手間と経費がかかりそうである。だが、開催が出来るだけ良し、とせざるを得ないか。

第60回 OMC フェスティバルは、予定通り朝日生命ホールで開催出来たが観客数が当初計画動員数220名に対し、80名であった。コロナ禍のもと、開催できたという実績で満足とするか。

一方、関東地区は毎年恒例の映像発表会は軒並み中止されたようである。

さて、今年令和3年度の活動であるが OMC 恒例の一泊撮影会である。コロナのせいで全国的なお祭りや行事がほとんど中止されており、今年担当の岡本副会長が頭を抱えておられる。撮影会の目的は、普段撮れない、一人では行けないところを事前にロケハン準備されたところに行くので、作品が作り易いということと、一緒に集まってお酒を飲みながら懇親会的な食事が楽しみな面がある。ところがこのコロナ騒ぎで大勢での会食はやめろ、大きな声でしゃべるな、である。少人数に分かれて黙って食事をせよ、となると、懇親会の意味がない。そこで今年は日帰りの撮影会にしようか、という話が出ている。どなたかいい場所が有ったらぜひ岡本氏へ連絡をしてほしい。

OMC 年中行事の一つ課題コンテストはコロナと関係なく実施したい。宮中歌会始めの来年の課題にちなんで行われているものだが、コロナのせい歌会始の儀が中止されたらどうなるか。

オリンピックも開催されるかどうかということもあり、不確実なことばかりだがコロナ対策をとった上で、前向きに一つひとつ実行していく外にない。コロナもこのまま下火になってほしいものである。

## 令和2年12月通常例会レポート

依然として全国的にコロナ感染者数の増加が収まらず、大阪でも外出自粛や飲食店への営業時間短縮要請期間の延長が行われる環境が続いています。会員の皆さんは、元気にされているとのことですが、それぞれの生活環境や地域の状況などの事情から例会参加が難しい方もおられました。例会場では、学習センターの運営指導が行われ、三密回避などの対策を講じての開催が続いています。

今回、愛知・岡崎市から江藤さん、久しぶりに岩井さん、お二人の元気な参加がありました。

■運営担当：司会・合原、書記・進藤、映写・岡本、メモリー記録・江村、受付・照明・森下・宮崎

■出席者：岡本、紙本（作品参加）、進藤、高瀬、関、森下、宮崎、山本、上総、岩井、江村、合原、

濱田(初参加)、江藤(出席者名簿記載順 以上14名)

## 【上映作品】

### 1. 散り紅葉 HD

岡本 至弘 8分00秒

<作者コメント> 11月半ば、紅葉狩りに、コロナを避けて、三重県赤目溪谷に行ってきました。紅葉は終盤で良くありませんでしたので、タイトルを「散り紅葉」としました。その日ライトアップがあるということで、陽が落ちるのを待って撮影することにしました。そして、この4月から、短歌の会に入りましたので、映像と短歌をコラボした作品にしてみました。

<書記コメント> 紅葉が終わった頃で、落葉した葉が水に乗って流れていく姿や、岩の上に散った葉など寂しさが始めに表現されました。タイトルのイメージからは、短歌のイメージだけでなく落葉する様子が欲しかった。音楽と落葉するイメージがマッチしにくかった。前半の落葉から一転して、照明器具と思われる造形物の明暗模様に分断されているので、BGMとのイメージ合せがあると良くなるなどの話があった。



### 2. 東淀川歴史散策 HD

紙本 勝 12分40秒

<作者コメント> 先月に続いて後編です。社寺は7ヶ所ありますが、前編分も合わせると結構多いものです。散歩前は戦争遺跡などある事を知りませんでした。歩いてみて再発見、区内の史跡伝承も判りよかったですと思いました。

<書記コメント> 今回の作品で取り上げられている東淀川区は、新大阪駅の東側、淀川の右岸(北側)で安威川が神崎川と合流した辺りまでのデルタ地帯であった一帯。

聖徳太子の時代から、水と戦いながら生活が行われた史跡などを身近に感じられたとの表現がありました。コロナ禍で遠くへの撮影行が難しい時、身近に良いテーマを見つけられたと思います。

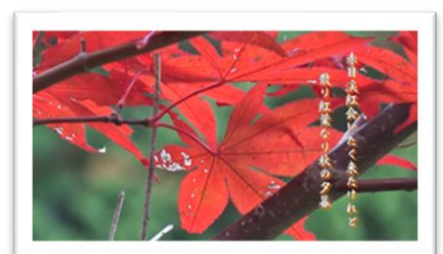
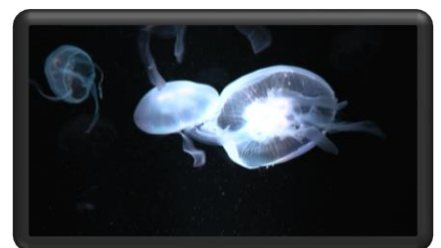


### 3. 大江山 鬼退治 HD

進藤信男 11分45秒

<作者コメント> 2016年、初めて大江山酒呑童子の里を訪れて以来「なぜこの地に妖怪と考えていた鬼の里があるのか、鬼とは一体どんなものなのか」という疑問を持っていた。魍魎魍魎の世界、得体のしれない民話の世界に通じるもの、何となくロマンチックなものと考えた。

しかし、古代から平安京へつづく歴史の中で、教科書に表現されている雅やかな社会と、支えている民衆との乖離など現在に通じる社会現象の中での出来事だったという解説に目を見張った。同時に、作品にしてみても、どう表現すればよいかの重みをずっと感じ、今回のようなまとめ方しか出来なかった「まどろっこさ・難しさ」という新しい疑問を持ち続けている。



### 4. クラゲワンダ HD

### 高瀬 辰雄 7分20秒

<作者コメント> 今年の夏、京都水族館にクラゲの大きな水槽が設けられました。クラゲの数約5000匹だそうです。クラゲの種類もさまざま、動きも面白く撮影しました。

クラゲワnderと名付けられるようにクラゲの奇観、驚異といった雰囲気表現出来たらと思い、編集、BGMを考えてみました。

<書記コメント> 赤色のクラゲから白色のクラゲへ、そして大型から小さいものへと変化させている。そして、神秘的なイメージから現実の世界へと工夫された表現が面白い。会場では、神秘的なクラゲとのBGM合わせについての面白さの話があった。



### 5.HELP (アニメ) HD

#### 関 剛 7分30秒

<作者コメント> 当時はまだ、医療サービスが発達していなかった時代。愚妻が歯を治療して20万円もぼったくられたことがあった。歯科医に対するイメージを作品に訴えてみた。



<書記コメント> 8ミリフィルムで作ったアニメをデジタルに変換。SD(4:3)からHDにコンバートして作品の永命をされている。SD製作作品同様に、これからのビデオ環境へ対応する手順を踏まれていることが分かります。作品内容は、いくつかのパロディ作品同様作者独特の感性が存分に発揮されたものだった。

### 6.インド石窟寺院 HD

#### 山本 正夢 8分30秒

<作者コメント> コロナで外出できず家にいる時間が多くなり、昔の古いテープを再編集しました。今回初めて著作権フリーを念頭に編集しました。

<書記コメント> インド中西部にある仏教石窟寺院群。ヒンドゥ教徒が8割のインドで珍しい仏教の世界遺産である。アジャンタ石窟寺院群は紀元前2~1世紀に建造されたという。クレーンもない時代にこんな細かい石の掘削技術があったのだ、併せて、再生や修理が施されたものではないと思われるのに色の保存状態も良いことに圧倒される。また、初めて出てくるポーターの姿もこの地の特徴をほうふつと表し印象的だ。



### 7.東京カテドラルとホテル椿山荘 HD

#### 上総 秀隆 10分00秒

<作者コメント> コロナ禍のため延期になっていた姪の結婚式と披露宴が、ようやく11月3日開催された。大きなカトリック教会では新郎新婦の友人も参列。宴会は向かいのホテルに親類が集い、神父さんもお越し下さった。

<書記コメント> 東京・文京区目白台にある著名な教会とホテルでの結婚式と披露宴の記録。例会場では、久しぶりにおめでたい記録を拝見しましたという声があった。文京区は、御存じ大学のキャンパスが並ぶ落ちついた地域。早くこんなお目出たい行事が心置きなく続けられるよう願うばかりです。



## 8.よっ! 濱長 HD

江村 一郎 7分30秒

<作者コメント> 2019年よさこい祭り本祭最終演舞の「濱長花神楽」を追った。場所は追手筋と帯屋町に挟まれた柳町で道幅もせまく他の演舞場とは違った雰囲気がある。連「濱長花神楽」を運営する料亭濱長は土佐のお座敷文化を守り紡ぐという使命を持ち、昭和25年のよさこい祭りを立ち上げにも関わったという。

<書記コメント> 踊り連のはじめに、10周年の表示、先頭の踊り手が涙ながらに踊っていた。武政秀策氏に頼み込み、土佐のよさこい祭りを立ち上げた濱口八郎氏の子孫で料亭「濱長」の女将さんが立ち上げた「濱長花神楽」が初参加の平成22年から10年ということだった。今までの作品と違った、「よさこい鳴子踊り」の神髄をじっくりと鑑賞したい作品だ。



## 9.炭に生きる SD(4:3)

合原 一夫 11分53秒

<作者コメント> 川西市の郊外に今西さん一家があり、今では数少なくなった炭を焼いている。主に「お茶」の世界で愛用されている「菊炭」という炭である。

まず、くぬぎの原木を山から切り出し、窯に入れて数日かけて焼く。その苦労ぶりを密着取材して撮影した。まだ残り火のある熱い窯の中にカメラを持ち込んで撮影し、熱さで放々のテイで外へはい出してほっとしたことを思い出す。平成14年撮影。

<書記コメント> 伝統を紡ぐ今西家は、川西市黒川にある唯一の菊炭焼きだという。現地に行ってみると、少なくなった「くぬぎ」の切り株に新芽を付けているのが散見できる、エドヒガン桜の保存も行われている里山保存地区。こんなに苦労があるのかと新たな発見がある作品だ。



## 10.筑波海軍航空記念館来訪 HD

江藤 洋司 11分33秒

<作者コメント> 東北の知人から茨城県笠間市にある茨城県水戸市出身の飛虎將軍の「神様になった海軍パイロット—杉浦茂峰—飛虎將軍廟展」に誘われ訪れた。

<書記コメント> 江藤さん得意の歴史作品です。今回も、第二次大戦で航空パイロットであった方とともに筑波海軍航空隊記念館を見学するというものです。テーマとしては、この作品の時間では語り尽くせないものと思います。インタビューされている一言づつに大きな意味があると思います。シリーズにするなど、複数回に整理して纏めるなどは如何ですか。

## 11.協創ダジ村総集編 SD

濱田 将司 15分00秒

<作者コメント> 岡山県美作市で棚田の再生に取り組んでいた頃の記録です。NHKのプロジェクトXが好きで、あの番組へのオマージュをこめて作りました。10年以上前なのでSDサイズ・ミニDVで撮りました。

<書記コメント> 濱田さんは、今回岡本会員の紹介で初参加されました。岡山県美作市で10年以上前に友人たちと棚田復活活動をした記録を持参された。SD映像として撮影されたということですが、グーグルアースの取り込みがあるなど、かなり熟練されていることが分かります。これから、会員仲間としてご活躍されることを楽しみにしています。

## あとがき

コロナ禍で例会開催・参加にも気を遣う一年でした。例会参加が出来ない方にも作品視聴出来るよう、会員限定の You tube 公開を続けています。掲載については、音楽著作権など利用できる曲に気遣いが要るなど従来余りにしていなかったこともありました。そんな中で、フリーソフト利用へ進められる方が3名ほど増えてきました。3密回避などのほか、新しい要件を見つけながら新しい年も楽しく作品創作に挑戦し続けていきたいと思います。

### 【新入会員】

濱田 将司